

学校教育目標

- ◎自己の可能性を信じ、何事にも主体的にチャレンジする生徒の育成
- ◎広い視野を持ち、地域社会の形成にすすんで参画できる生徒の育成

果樹園芸科

笛吹高校の3年間で身に付けてほしい力

【 豊 かな 人 間 性 】
【 課 題 解 決 能 力 】
【 社 会 性 ・ 指 導 性 】
【 社 会 へ の 参 画 意 識 】

1年次の目標

果樹園芸に関する基礎・基本的学習と技能の習得

2年次の目標

果樹園芸に関する基礎基本をもとに幅広い専門知識と技能の定着

3年次の目標

果樹園芸の専門的技術の活用から経営に関する知識の習得
問題解決能力の定着と進路実現

学ぶ皆さんへの助言・アドバイス

本学科は、果樹や園芸に関する知識・技能を習得し、峡東地域の基礎産業を担うスペシャリストの育成にあります。また農産物の海外輸出などグローバル化社会に対応した視点が求められることから、多くの体験プログラムが用意されています。進路では、就職はもちろん専門学校や4年制大学への進学実績もあり、個々の生徒にあった指導を職員が一丸となって行い進路実現を果たします。将来を見据え目的意識をしっかりとって何事にも意欲的に取り組んでください。

	教科	科目	
1	国語	国語表現	
2	地理歴史	世界史 A	
3	公民	現代社会	
4	理科	生物基礎	
5	保健体育	体育	
6	農業	課題研究	
7	農業	果樹	
8	農業	野菜	選択 1
9	農業	草花	選択 1
10	外国語	英語理解	選択 2
11	農業	農業情報処理 II	選択 2
12	農業	ワイン製造	選択 2
13	農業	植物バイオテクノロジー	選択 3
14	農業	農業経済	選択 3
15	農業	生物活用	選択 4
16	農業	グリーンライフ	選択 4

平成30年度 年間シラバス (生徒配布用)

教科・科目	国語・国語表現	単位	2	履修区分	必修修・必修	選択
対象学年・類型・コース	3年 果樹園芸科					
使用教科書	高等学校 改訂版 国語表現 第一学習社					
目標とする生徒の将来像	<ul style="list-style-type: none"> ・国語で適切、かつ効果的に表現できる生徒 ・自ら進んで表現することで、国語力の向上や社会生活の充実を図る生徒 ・「伝え合う力」を生活に活かし、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨く生徒 					
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業、小テスト及び課題内容等で学習したことの定着を、定期試験並びに到達度確認テストの成果から判断 ・意欲的に授業に臨んでいるか観察 ・基礎学力の定着を、ノート、小テスト、課題学習等の成果から判断 ・伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項を、授業全般で確認 					
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付きたい力	主たる評価の観点・方法	自己評価	
1 学期	第1回定期試験	<ul style="list-style-type: none"> ・写真からストーリーを創る ・写真に五七五と付ける ・誕生月の詩を選ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己独自のストーリーを創る ・写真を見て五七五で表現 ・イメージに合った詩を選ぶ 	授業中の姿勢や課題の状況 定期考査	A B C	
	第2回定期試験	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を書く意味 ・文章の書き方 ・わかりやすい表現 ・表現の工夫 ・描写の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を書く意味を考える ・基本的な書き方で書く ・分かりやすい文章を書く ・表現技法を理解する ・描写の硬化を理解する 	授業中の姿勢や課題の状況 定期考査	A B C	
2 学期	第3回定期試験	<ul style="list-style-type: none"> ・「言葉にする」から始めよう ・相手理解は聞くことから ・メールか手紙か ・手紙を書く 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを言葉にして相手に伝える ・聞くことの意義を考える ・手紙とメールの長所を考える ・手紙の価値と必要性を理解する 	授業中の態度や課題の状況 話し合いの姿勢 定期考査 夏期休業課題	A B C	
	第4回定期試験	<ul style="list-style-type: none"> ・想像の旅 ・紹介文・宣伝文を書く ・パンフレットを作る 	<ul style="list-style-type: none"> ・広告におけるコピーの目的と効果を理解する ・紹介文、宣伝文を理解する ・主体的に情報を発信することの必要性を理解する 	授業中の態度や課題の状況 話し合いの姿勢 定期考査	A B C	
3 学期	第5回定期試験	<ul style="list-style-type: none"> ・記録文を書く ・レポートを書く ・資料を編集する ・考えを発表する 	<ul style="list-style-type: none"> ・記録文の基本的な形式を理解し、実際に書く ・レポートの書き方を身につけ、実際に書く ・データを整理、編集する方法を身につけ、実際に編集する ・スピーチの形式を理解し、実際に発表する 	授業中の態度や課題の状況 話し合いや発表の姿勢 定期考査 冬期休業課題	A B C	
検定資格(時期) 諸費用(予定)	特になし					
履修にあたって	「日本語」を使うことはできるが、「正確に使うこと」は難しい。そこで、「より一層伝わる表現」を模索しながら、課題等への取り組みを重視していくので、授業にきちんと取り組む姿勢を維持することを心掛ける。					

教科・科目	地理歴史・世界史A	単位数	2	必修修	必修・選択
学年・系列・コース	3年食品化学学科・果樹園芸学科				
使用教科書	世界史A(実教出版)	副教材	アカデミア世界史		
目標とする生徒の将来像	近現代史を中心とする世界の歴史を、諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解する。現代の諸課題を歴史的観点から考察し、歴史的思考を培う。国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。				
評価の観点	①授業への関心、意欲、態度および、授業内容を日本の歴史と関連付け、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現していること。(10%) ②諸資料の収集、有用な情報の選択、読み取り、図表などへのまとめ。(10%) ③近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身につけている。(80%)				
学期	単元・教材	主たる目標・つきたい力	評価の観点		
1 学期	第1章 ユーラシアの諸文明の特質 1 西アジア世界・イスラーム世界 2 ヨーロッパ世界 3 南アジア世界・東南アジア世界 4 東アジア世界・内陸アジア世界 第2章 ユーラシアの交流 1 海と陸の交流 2 モンゴル帝国と東西の交流 3 ヨーロッパ商業圏と東アジア海域の発展 第3章 一体化に向かう世界 1 世界の一体化の第一歩 2 ルネサンスと宗教改革 3 ヨーロッパの主権国家体制	・西アジア世界・イスラーム世界の特質の把握 ・ヨーロッパの風土と諸民族、ヨーロッパ世界の特質の把握。南アジア・東南アジアの風土と諸民族、南アジア世界・東南アジア世界の特質の把握。 ・東アジア・内陸アジアの風土と諸民族、国際体制、日本を含む東アジア世界の特質の把握。 ・ユーラシアの諸地域を結ぶ海と陸のネットワークの成長の把握。 ・モンゴル帝国の拡大とユーラシアの一体化の把握。 ・ヨーロッパにおける商業圏の発展や、日本を含む東アジア海域の交流圏の成長の把握。 ・大航海時代の世界の一体化への動きの理解。ヨーロッパの主権国家体制の成立への理解。	①②③		
2 学期	第4章 アジアの繁栄と世界 1 アジアの繁栄 2 世界経済体制の形成 第5章 19世紀の世界の一体化と日本 1 産業革命と工業化社会の成立 2 アメリカ独立戦争 3 フランス革命とナポレオン戦争 第6章 二つの世界大戦 1 激変する社会と帝国主義 2 第一次世界大戦とロシア革命 3 戦間期のヨーロッパとアメリカ 4 民族運動の高まり 5 第二次世界大戦	・産業革命、フランス革命、アメリカ諸国の独立、自由主義と国民主義の進展、拡大する貿易活動を扱い、ヨーロッパ・アメリカにおける資本主義の確立と国民形成を理解する。 ・ヨーロッパの進出期におけるアジア諸国の状況、植民地化や従属化の過程での抵抗と挫折、伝統文化の変容、その中で日本の対応を扱い、19世紀の世界の一体化とその特質を理解する。 ・輸送革命、マスメディアの発達、企業や国家の巨大化、社会の大衆化と政治や文化の変容、公教育の普及と国民統合などを扱い、20世紀という時代の特質を人類的視野から把握できる。 ・第一次世界大戦と第二次世界大戦の原因や総力戦としての性格、それらが及ぼした影響を理解し、平和の意義などについて考察できる。	①②③		
3 学期	第7章 第二次世界大戦後の世界と日本 1 冷たい戦争 2 アジア・アフリカ諸国の独立と混乱 3 多極化の進展と冷戦体制の崩壊 第8章 現代の世界 1 統合へ向かうヨーロッパ 2 旧ソ連・東ヨーロッパ諸国の動向 3 アメリカの戦争と世界同時不況 4 西アジアの混迷 5 南アジア・東南アジアの動き 6 巨大化する中国と東アジアの変動 7 ラテンアメリカ・アフリカ・オセアニアの情勢 終章 持続可能な世界をめざして 1 巨大技術と人間 2 人が人らしく生きるために 3 なお続く紛争	・第二次世界大戦後の世界が抱える問題などについて考察できる。 ・1970年代以降の市場経済の世界化や地球規模での問題の出現を理解し、日本が世界の諸国、諸地域と多様性を認めあいながら共存する方向などについて考察する。 ・原子力の利用、情報科学など現代の科学技術の人類への寄与と課題、移民や女性・子どもなど様々な人々に関わる問題、地域紛争の原因とその歴史的背景などを追究し、人類の生存と環境、世界の平和と安全などについて考察するとともに、国際的な交流と協調の必要性に気付くことができる。	①②③		
検定資格(時期) 諸費用(予定)	なし				
履修にあたって	常になぜ・どうして、こういうことが起こったのだろうか。目的は何だったのかという疑問を持ち、いろいろな方法を使って考え、自分の意見や考え方を持つことができるようになることを期待します。				

教科・科目	現代社会	単位数	2
学年・系列・コース	3年食品化学科・果樹園芸科・総合学科		
使用教科書	最新現代社会(実教出版)	副教材	
目標とする生徒の将来像	人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。		
評価の観点	<p>【関心・意欲・態度】現代の政治、経済、国際関係に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進について客観的に考えようとする。</p> <p>【思考・判断】現代の政治、経済、国際関係にかかわる事柄から課題を見だし、その本質や特質、望ましい解決の在り方について広い視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断する。</p> <p>【資料活用の技能・表現】現代の政治、経済、国際関係にかかわる諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択し活用するとともに、追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現する。</p> <p>【知識・理解】現代の政治、経済、国際関係に関する基本的な事柄や、本質、特質及び動向をとらえる基本的な概念や理論を理解し、その知識を身に付けている。</p>		
学期	単元・教材	主たる目標・つきたい力	評価の観点
1学期	第1部 第1章 地球環境問題 第2章 資源・エネルギー問題 第3章 生命科学と情報技術の課題	<ul style="list-style-type: none"> それぞれのテーマについて、調べ学習をし、問題点を把握できる 調べたことを、他の生徒の前で発表できる 	【関心・意欲・態度】 【思考・判断】 【資料活用の技能・表現】 【知識・理解】
2学期	第2部 1 第1章 自分らしく生きる 第2章 人間としてよく生きる 第3章 日本人としての自覚 2 第1章 現代国家と民主政治 第2章 日本国憲法の基本的性格 第3章 日本の政治機構と政治参加	<ul style="list-style-type: none"> 青年期とはどのような期間か、自らの問題としてとらえる 法の支配・三権分立とその重要性を理解する 議会や選挙の原理を理解し、日本の制度を説明できる 自由主義と社会主義の体制の違いを理解する 	【関心・意欲・態度】 【思考・判断】 【資料活用の技能・表現】 【知識・理解】
3学期	3 第1章 現代の経済社会 第2章 日本経済の特質と国民生活 4 第1章 国際政治の動向 第2章 国際経済の動向と国際協力 第3部 共に生きる社会をめざして	<ul style="list-style-type: none"> 資本主義経済の特徴を、社会主義経済の特徴と比較し理解する。 経済の基本的な概念や理論を学習することによって、現代経済の特質について考える。 日本の財政の現状を理解し、経済活動のあり方と福祉の向上について考察し、日本経済が抱えている問題について認識する。 	【関心・意欲・態度】 【思考・判断】 【資料活用の技能・表現】 【知識・理解】
検定資格(時期)	特に予定していません。		
諸費用(予定)			
履修にあたって	現代社会を理解するためには、膨大な情報の中から、適切な情報を自ら選択していかなければならない。まず、新聞やニュースなどを常にチェックし、社会の動きに敏感になることが必要である。その上でわからないことがあれば、自ら調べ、考える。その際、物事は必ず多面的にとらえることができるということを前提に、複数の意見を知るようにする。 授業においては、まず話を良く聞き、大事だと思ったところは自分なりにチェックしておく。常に現実社会で起きている出来事と関連づけて考えるようにし、わからない言葉などは必ず調べ直すようにする		

教科・科目		理科・生物基礎	単位数	2	(必修)・必修・選択
学年・系列・コース		3年5組・果樹園芸科			
使用教科書		改訂生物基礎(東京書籍)	副教材	レッツライノート生物基礎(東京書籍)・配布プリント	
目標とする生徒の将来像		日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。			
評価の観点		①関心・意欲・態度:授業や実験に意欲的に取り組み、自然界の法則性を追求する姿勢。 ②科学的な思考・表現:実験や観察から科学性・法則性を見だし、考え、生徒自身の言葉で表現を行う。 ③実験・観察の技能:実験や観察を、定められた方法で正しく実施し、目的に沿った結果を導く能力。 ④知識・理解:実験や観察より導かれる理論や原理を理解し、習得する能力。			
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力	主たる評価の観点・方法	自己評価
1 学期	第1回定期考査	3. 生物の体内環境の維持 ① 体内環境 ② 体内環境を維持するしくみ	体内の環境を維持するはたらきについて理解 体液や心臓、肝臓、腎臓の働きを理解する。 適切な方法や態度で、血液の観察の実験を行 神経のつくりやホルモンのはたらきを理解する	① 授業態度・提出物 5 ② 実験レポート 5 ③ 定期考査 25 ④ 実験レポート 10 ⑤ 定期考査 20 ⑥ 定期考査 25 ⑦ ワークシート 10	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
	第2回定期考査	③ 免疫 ④ 生物の多様性と生態系 ① 植生の多様性と遷移	生体防御と免疫のはたらきについて理解する インフルエンザや花粉症の原理を説明できる ようになる 植生や遷移の原理を理解する	① 授業態度・提出物 5 ② 実験レポート 5 ③ 定期考査 25 ④ 実験レポート 10 ⑤ 定期考査 20 ⑥ 定期考査 25 ⑦ ワークシート 10	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
2 学期	第3回定期考査	② バイオームとその分布 ③ 生態系とその保全	バイオームの概念を理解する 農業とバイオームの関わりから、どのような作物 どのような環境を好むか考える力をつける 生態系の価値を理解し、現在の環境問題につ て主体的に考え、解決しようとする能力を培う	① 授業態度・提出物 5 ② 実験レポート 5 ③ 定期考査 25 ④ 実験レポート 10 ⑤ 定期考査 20 ⑥ 定期考査 25 ⑦ ワークシート 10	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
	第4回定期考査	これまでの学習内容の復習 ◎ これまでの生物基礎を 中心として、復習を行 う。小中学校の内容の 達成度を確認し、将来 社会で活かせるような 内容を選び、実験を 中心として行う。	進学・就職どちらにせよ必要となる基礎的な知 識を、実験や観察を通じて復習する。 小学校・中学校の理科の内容も場合によっ ては扱い、基礎的な理科の知識を習得する。	① 授業態度・提出物 5 ② 実験レポート 5 ③ 定期考査 25 ④ 実験レポート 10 ⑤ 定期考査 20 ⑥ 定期考査 25 ⑦ ワークシート 10	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
3 学期	第5回定期考査	◎ 高等学校での履修内 容と義務教育段階で の内容をリンクさせる ために、動物の発生 分野と光合成分野の 発展的補足を行う。		① 授業態度・提出物 5 ② 実験レポート 5 ③ 定期考査 25 ④ 実験レポート 10 ⑤ 定期考査 20 ⑥ 定期考査 25 ⑦ ワークシート 10	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
検定資格(時期) ・ 諸費用(予定)		なし			
履修にあたって		本科目は、2年次の生物基礎の続きとして実施するため、2年次の進捗によっては内容が変化する。座学を中心にビデオや実験・観察を行い、科学的な思考力を養う。教科書がすべて終わった後は、教科書の復習を行う。理科の教科の本質的な流れとして、実験や観察から分かったことを偏見無く考え、表現することが大切である。単に暗記に走らず、なぜこのような現象が起こるのか、その原理を追求してほしい。また、生物という自分の体について学習するため、生まれたときから死ぬときまで、長い間ためになる知識であることを踏まえて、意欲的に学習をしていただきたい。			

平成30年度 年間シラバス (生徒配布用)

教科・科目		保健体育・体育	単位	2	履修区分	必履修・必修・選択
対象学年・類型・コース		3年果樹園芸科				
使用教科書		なし				
目標とする生徒の将来像		<ul style="list-style-type: none"> ・時間やルールを厳守し、率先して与えられた役割を確実にこなそうとする、責任感のある生徒。 ・運動の技能や知識を身につけ、高めていくために努力を継続することができる生徒。 ・積極的に活動に参加し、自己表現や他者への配慮などのコミュニケーションをとろうとする、信頼できる生徒。 				
評価の観点		<p>①【関心・意欲・態度】 時間やルールを守ることや、仲間とともに積極的に活動へ参加しようとしているか。</p> <p>②【思考・判断】 技能の向上のために、工夫したり、仲間と協力したりしているか。</p> <p>③【技能】 自己の身体を思い通りに扱い、正確な技能が発揮できているか。</p> <p>④【知識・理解】 技能が向上するための身体動作や運動の特性を理解し、知識を理解しているか。</p>				
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力	主たる評価の観点・方法	自己評価	
1 学期	第1回定期試験	・体づくり運動（体力を高める運動、集合、整頓、列の増減、集団としての行動）	・基礎的な運動能力を身につける ・大きな声を出すとともに、迅速に集団としての協調的な動きができるようになる。	①観察 ②観察 ③テスト ④観察	A B C A B C A B C A B C	
	第2回定期試験	・球技選択 バスケ、バレー、バドミントン、卓球、テニス、サッカー、ソフトボール	・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できる。	①観察 ②観察 ③テスト ④ワークシート	A B C A B C A B C A B C	
2 学期	第3回定期試験	・ペース走	・自己に適したペースを維持して走ったり、ペースの変化に対応して走ったりする。徐々に記録を向上させる努力をする。	①観察 ②観察 ③テスト ④ワークシート	A B C A B C A B C A B C	
	第4回定期試験	・球技選択 バスケ、バレー、バドミントン、卓球、テニス、サッカー、ソフトボール	・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できる。	①観察 ②観察 ③テスト ④ワークシート	A B C A B C A B C A B C	
3 学期	第5回定期試験	・球技選択 バスケ、バレー、バドミントン、卓球、テニス、サッカー、ソフトボール ・体育理論	・球技選択 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できる。 ・体育理論 生涯豊かなスポーツライフを送る上で必要となるスポーツに関する科学的知識を身につける。	①観察 ②観察 ③テスト ④ワークシート	A B C A B C A B C A B C	
検定資格(時期)		なし				
諸費用(予定)		なし				
履修にあたって		チャイム前には整列をし、大きな声で挨拶・体操をすることで体育の授業は始まります。お互いに100%で授業に臨みましょう。				

教科年間シラバス

詳細は授業にて指示

教科・科目	農業・課題研究(資格取得)	単位数	2	必修	必修	選択
学年・系列・コース	3年果樹園芸科					
使用教科書	副教材 テキストおよび問題集、花材					
目標とする生徒の将来像	どんな職業に就いても常に向上心を持ち続け、自身のスキルアップのために必要な資格取得に挑戦し、さらに社会の一員として貢献できる人材を育成することを目指す。					
評価の観点	①関心・意欲・態度:授業の準備がしっかりでき、私語なく意欲的に取組んだ。 ②思考・判断・表現:理解が難しい専門用語を洗い出し理解しようとしている。ポイントを整理しまとめることができる。ノートへの記載や資料が整理され誰でも見やすい状態である。花材を利用し目標とするデザインが表現できた。 ③技能・装飾技能を修得し資格が取得できた。					
学期	単元・教材	主たる目標・つきたい力			評価の観点	
1学期	・日本農業技術検定 ・室内園芸装飾技能 ・危険物取扱者	・農業に関する専門的知識 ・室内園芸装飾に関する専門知識と技能 ・危険物に関する専門的知識			※各資格取得による ※詳細は、各授業で提示	
2学期	・日本農業技術検定 ・室内園芸装飾技能 ・危険物取扱者	・農業に関する専門的知識 ・室内園芸装飾に関する専門知識と技能 ・危険物に関する専門的知識			※各資格取得による ※詳細は、各授業で提示	
3学期	・日本農業技術検定 ・室内園芸装飾技能 ・危険物取扱者	・農業に関する専門的知識 ・室内園芸装飾に関する専門知識と技能 ・危険物に関する専門的知識			※各資格取得による ※詳細は、各授業で提示	
検定資格(時期) ・ 諸費用(予定)	○日本農業技術検定 検定試験:7月および12月の2回 検定会場:本校園芸実習室(中館3階) 検定料:1540円 テキスト代:3級1296円、2級1728円 問題集:864円					
	○室内園芸装飾技能検定 検定試験:実技試験7月・学科試験8月 検定会場:農林高校 検定料:実技11000円・学科3100円 テキスト等:なし					
	○危険物取扱者 検定試験:6月・10月2月の年3回 検定会場:未定 検定料:丙種2700円、乙4類3400円 テキスト代:1000円					
履修にあたって	・必ずテキストおよび問題集を購入すること(室内園芸はなし) ・必ず年1回以上検定試験を受験すること ・全員合格を目指しますので意欲的に学習に取り組むこと ・授業の進め方については、各資格により異なるため詳細は授業内で提示する					

教科・科目	農業・果樹(ブドウ専攻)		単位数		必修	必修	選択
学年・系列・コース	3年・果樹園芸科						
使用教科書	果樹(実教出版)		副教材				
目標とする生徒の将来像	地域の基幹産業である果樹栽培の担い手として、地域のリーダーとなり果樹産業の発展に貢献する。						
評価の観点	①関心・意欲・態度:授業への準備が整っており、話しを聞く姿勢や態度が良好で集中して意欲的に取り組める。 ②思考・判断・表現:教科書を理解して聴きやすく音読できる。ノートへの記載や資料が整理されている。調査研究内容をレポートにまとめ考察し発表することができる。果樹の生育状況を判断し適切な管理方法を理解している。 ③技能:年間をとおして果樹の栽培技術や生育状況にあわせた管理技術を習得している。 ④知識・理解:果樹に関する専門用語や生理生態の基礎を理解できる。果樹栽培の管理方法を理解している。						
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力	主たる評価の観点・方法	自己評価		
1 学期	第1 回定期 考査	・プロジェクト学習(テーマ設定) ・ブドウの生育と管理 ・新梢管理	・ブドウの年間管理作業と目的を理解する ・教材であるブドウの構造と名称が分かる ・ブドウの新梢管理(芽かき・誘引)の目的と効果を理解しその方法を習得する ・新梢調査の方法と測定器具の扱いが正確にできる ・調査データを適正に記録管理する力	○定期考査 7 0% ○取組姿勢 10% ○提出物 5% ○農業 クラブ活動 10% ○技能 5%	A・B・C A・B・C A・B・C		
	第2 回定期 考査	・主なブドウの品種と特性 ・着果調節	・ブドウの品種特性が理解できる ・ブドウの適正着果数と調整方法が理解できる ・品種によるブドウの房づくりの違いを知りその方法を習得する ・房の大きさを左右する摘粒方法を習得する ・果房管理の目的とその方法を習得する	○定期考査 7 0% ○取組姿勢 10% ○提出物 5% ○農業 クラブ活動 10% ○技能 5%	A・B・C A・B・C A・B・C		
2 学期	第3 回定期 考査	・収穫調整 ・病虫害防除	・ブドウの収穫適期が判断できる ・ブドウの出荷調整方法がわかる ・主な果樹の病虫害が分かる ・病虫害防除の方法とその特徴が理解できる ・病虫害の観察とスケッチが正確にできる	○定期考査 7 0% ○取組姿勢 10% ○提出物 5% ○農業 クラブ活動 10% ○技能 5%	A・B・C A・B・C A・B・C		
	第4 回定期 考査	・土壌管理 ・プロジェクト学習(発表)	・土壌表面の管理法とその特徴が分かる ・果樹の生育に必要な肥料要素と効果が分かる ・適正施肥量を計算する力 ・プロジェクト研究の内容を理解し調査データを読み取り考察し発表できる	○定期考査 7 0% ○取組姿勢 10% ○提出物 5% ○農業 クラブ活動 10% ○技能 5%	A・B・C A・B・C A・B・C		
3 学期	第5 回定期 考査	・整枝剪定 ・果樹の生育と管理(まとめ)	・ブドウの仕立て方とその特徴を理解できる ・ブドウの整枝剪定の目的と方法を理解できる ・主な果樹の生育と管理内容が理解できる	○定期考査 7 0% ○取組姿勢 10% ○提出物 5% ○農業 クラブ活動 10% ○技能 5%	A・B・C A・B・C A・B・C		
検定資格(時期)	特になし						
諸費用(予定)							
履修にあたって	・付属農場での授業が主であるため、連絡がないかぎり、座学(教科書、ノート、筆記用具)・実習(実習服・帽子など)の両方の準備をして来ること。 ・特に実習では、農機具類を使用する場面が多く安全第一、怪我防止等には十分考慮する必要があるため、職員の説明をしっかりと聞くことや指示には絶対に従うこと。 ・農場への移動に時間がかかるため、授業が速やかに開始できるよう迅速に行動すること。						

平成30年度 年間シラバス (生徒配布用)

教科・科目	3年「果樹」	単位	2	履修区分	必修修 ・ 必修 ・ 選択
対象学年・類型・コース	3年果樹園芸学科 「果樹」モモ専攻生				
使用教科書	実教出版「果樹」・ 自作プリント				
目標とする生徒の将来像	<ul style="list-style-type: none"> 山梨県の主たる地域産業である果樹栽培について、その発展の歴史と栽培の実際について学び、品質や生産性の向上、流通の改善など地域に生きる産業人としての責任と自覚を持たせる。 モモの栽培プロジェクトを通して、課題意識の持ち方、改善のための企画力、実践力、表現力を培い、課題解決(PDCA)の理論を習慣化する。 				
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> 班編制の中での学習活動状況 プロジェクトの業績成果及び発表の態度(生徒相互評価を加える) 定期試験の評点 提出物の成果 				
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力	主たる評価の観点・方法	自己評価
1 学期	第1回定期試験	<ul style="list-style-type: none"> 科目ガイダンス 土壌と生物(生態系) 山梨県の地勢の特徴 産業としての果樹栽培の経緯・歴史 果実の栽培と利用 受精と人工受粉 	<ul style="list-style-type: none"> 環境保全やエネルギー循環について理解する 山梨の地勢とそれに特化した果樹栽培について学ぶ 果樹の分類や活用について理解する 受精のメカニズムを理解する 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査による評点 実習ノートの評価 プロジェクト学習への調査取組状況 	
	第2回定期試験	<ul style="list-style-type: none"> 摘蕾の方法と程度 果実の肥大と摘果 落果とその対策 生理障害とその対策 	<ul style="list-style-type: none"> 果実の生育段階に応じた特徴を把握する 人工的落果と自然落果の違い 生理障害の原因について理解し、効果的防除について学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査による評点 実習ノートの評価 プロジェクト学習への取組状況 	
2 学期	第3回定期試験	<ul style="list-style-type: none"> 病害虫の防除 植物の病理概論 病気の伝染と発病 害虫の種類と加害態様 	<ul style="list-style-type: none"> 植物の病理について学び、伝染経路や発病の成立要因について考える 害虫の加害態様や防除について考える 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査による評点 実習ノートの評価 	
	第4回定期試験	<ul style="list-style-type: none"> 有機質肥料の効能 土壌の物理的改善 肥料が及ぼす環境影響 施肥量と施肥計算 土壌と生物・生態系 	<ul style="list-style-type: none"> 化学肥料と有機質肥料の違いを理解し、その効能について考える 適正な土壌環境と肥料が及ぼす影響について考える 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査による評点 実習ノートの評価 プロジェクト学習の発表、生徒による相互評価 	プロジェクト発表の評価
3 学期	第5回定期試験	<ul style="list-style-type: none"> 枝の成長と整枝・せん定 樹形とせん定 せん定の強弱 頂部優勢と誘引 枝の均衡 	<ul style="list-style-type: none"> 樹の生育特性や結果習性の違いを理解し、永年管理の方法について理解する せん定による樹木の経済性や収量増産の方法について学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査による評点 実習ノートの評価 	
	検定資格(時期) ・ 諸費用(予定)	<ul style="list-style-type: none"> 関連する資格検定として農業技術検定3級(7月・12月) 科目に要する費用は特になし 			
	履修にあたって	<ul style="list-style-type: none"> 1年時に履修した「農業と環境」においてモモ栽培の基礎を学んだが、3年時では発展的学習として栽培プロジェクトについて取組み、課題解決能力を身につけさせたい。 			

教科・科目		農業・「野菜」	単位数	4	必修		必修	選択
学年・系列・コース		3年・果樹園芸科						
使用教科書		野菜(実教出版)	副教材	自作プリント等				
目標とする生徒の将来像		・施設栽培を通して野菜の生理生態的特性や栽培に適した環境を理解し、温室を利用した栽培管理と知識・技術を習得し、施設栽培・養液栽培についての基礎的な知識・技術を備えた生徒。						
評価の観点		①関心・意欲・態度：施設野菜栽培に興味・関心を持ち、主体的かつ意欲的に授業に取り組む態度を身につけている。 ②思考・判断・表現：施設野菜の生理生態的な特性を踏まえて、生育状況などを合理的に判断し説明できる。 ③技能：施設野菜それぞれの栽培特性を踏まえた上で、基本的技術を駆使できる。 ④知識・理解：施設・養液栽培の特性に関する基礎的な知識・技術を十分理解し実際の栽培に生かせる。						
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力		主たる評価の観点・方法		自己評価	
1 学期	第1 回定期 考査	1 科目「野菜」学習ガイダンス 2 野菜生産と生育特性(1) ①野菜の種類、利用、生産 ②野菜の生育と生理 3 温室メロン栽培 ①来歴・品種・作型 ②生育特性と栽培概要	1 科目「野菜」学習ガイダンス 2 野菜生産と生育特性(1) 野菜の種類、利用、生産の状況が分かる。各生育ステージを植物生理学的に説明できる。 3 温室メロン栽培 来歴・品種・作型の概要が分かる。生育特性と栽培の概要が分かる。		○定期考査 7 0% ○取組姿勢 10% ○提出物 5% ○農業 クラブ活動 10% ○技能 5%		A・B・C A・B・C A・B・C	
	第2 回定期 考査	4 温室メロンの定植後の管理 ①花芽分化と着花習性 ②誘引・整枝 ③受粉受精のしくみと果実の発育 ④人工授粉 ⑤結果節位の選定 ⑥果実肥大とネット形成 ⑦傘かけ・病害虫防除 5 収穫・荷造り ①収穫期の見分け方 ②収穫のしかた ③選果基準と荷造り	4 温室メロンの定植後の管理 花芽分化と着花習性が分かる。誘引・整枝の方法が分かる。受粉受精のしくみ、人工授粉と果実の発育の特徴が分かる。結果節位の選定ができる。果実肥大とネット形成のしくみが分かる。傘かけの意味を理解し実際に操作できる。病害虫防除の概要が理解できる。 5 収穫・荷造り 収穫適期の特徴(見分け方)が分かり、正しく収穫ができる。選果基準に基づいた荷造りができる。		○定期考査 7 0% ○取組姿勢 10% ○提出物 5% ○農業 クラブ活動 10% ○技能 5%		A・B・C A・B・C A・B・C	
2 学期	第3 回定期 考査	6 温室キュウリ・トマト栽培の実際 ①生育経過の概要 ②作型と品種 ③生育に適した環境 7 野菜生産と生育特性(2) ①野菜の生育と生理	6 温室キュウリ・トマト栽培の実際 生育経過の概要、作型と品種、生育に適した環境が理解できる。 7 野菜生産と生育特性(2) 種子発芽、茎葉の成長、光合成のしくみと物質生産、果菜類の花芽分化、葉菜類の抽台を植物生理学的に説明できる。		○定期考査 7 0% ○取組姿勢 10% ○提出物 5% ○農業 クラブ活動 10% ○技能 5%		A・B・C A・B・C A・B・C	
	第4 回定期 考査	8 温室キュウリ・トマト定植後の管理 ①誘引・腋芽かき・摘心 ②着花習性 ③病害虫防除 9 収穫と荷造り 10 野菜の施設栽培	8 温室キュウリ・トマト定植後の管理 誘引・腋芽かき・摘心の目的と操作ができる。着花習性を理解し苗を適切に定植できる。病害虫防除の概要が分かる。 9 収穫と荷造り 収穫と荷造りが的確にできる。 10 野菜の施設栽培 施設栽培の概要と特徴が分かる。		○定期考査 7 0% ○取組姿勢 10% ○提出物 5% ○農業 クラブ活動 10% ○技能 5%		A・B・C A・B・C A・B・C	
3 学期	第5 回定期 考査	11 野菜の養液栽培 12 プロジェクトのまとめ	11 野菜の養液栽培 養液栽培の概要と特色が分かる(塩類集積にも触れる)。 12 プロジェクトのまとめ 栽培プロジェクトのデータをまとめてプレゼンの準備、研究発表に何らかの形で関わることができる。		○定期考査 7 0% ○取組姿勢 10% ○提出物 5% ○農業 クラブ活動 10% ○技能 5%		A・B・C A・B・C A・B・C	
検定資格(時期)		特になし。						
諸費用(予定)								
履修にあたって		・附属農場での授業が主であるため、連絡がないかぎり、座学(教科書、ノート、筆記用具)・実習(実習服・帽子など)の両方の準備をして来ること。 ・特に実習では、農機具類を使用する場面が多く安全第一、怪我防止等には十分考慮する必要があるため、職員の説明をしっかりと聞くことや指示には絶対に従うこと。 ・農場への移動に時間がかかるため、授業が速やかに開始できるよう迅速に行動すること。						

教科・科目		農業・草花	単位数		必修修・必修	選択
学年・系列・コース		3年・果樹園芸科				
使用教科書		草花 実教 (農業304)	副教材	自作プリント		
目標とする生徒の将来像		特にシクラメン栽培で、各自がプロジェクト学習に取り組み、2年次に学習した生理生態を理解し、確実に研究に取り組み、プレゼンテーション能力を向上させる。季節に応じた鉢物を知り、基本的な栽培方法を学習する。				
評価の観点		①草花の栽培に関心を持ち生理生態を理解した上で各自がプロジェクトに意欲的に取り組むことができる。 ②草花における栽培がよりよい方向で栽培できるために基本的な知識と技術をもとに適切な判断し表現できることができる。 ③草花の基本的な技術を身につけ栽培計画し技術を適切に活用できる。 ④草花の基本的な知識を身につけ草花栽培の意義や人々に与える役割を理解している。				
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力	主たる評価の観点・方法	自己評価	
1 学期	第 1 回定期考査	第5章 鉢花生産 3 鉢花 ②シクラメン	シクラメンの基礎的な知識を学び栽培をとおし理解する。	④定期試験 70 ②定期試験での実験実習への理解 20 ①実験実習への参加状況の観察 10	A・B・C A・B・C	
	第 2 回定期考査	第5章 鉢花生産 3 鉢花 ②シクラメン 3 鉢花 ⑤プリムラ	シクラメンの基礎的な知識を学び栽培をとおし理解する。 各自がシクラメンを活用したプロジェクトを計画することができる。 プリムラ類の基礎的な知識を学び栽培をとおし理解をする。	④定期試験 70 ②定期試験での実験実習への理解 20 ①グループ分けポスターセッション ①③実験実習への参加状況の観察 10	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C	
2 学期	第 3 回定期考査	第5章 鉢花生産 3 鉢花 ②シクラメン	シクラメンの基礎的な知識を学び栽培をとおし理解する。 シクラメンの栽培管理ができる。 シクラメンのプロジェクト調査が計画的にできる	④定期試験 70 ②定期試験での実験実習への理解 20 ①③実験実習への参加状況の観察 10 ①グループ分けポスターセッション 10	A・B・C A・B・C A・B・C	
	第 4 回定期考査	第5章 鉢花生産 3 鉢花 ②シクラメン	各自がシクラメンを活用したプロジェクトを発表することができる。	④定期試験 70 ②データの分析と考察 20 ②プロジェクト理解と比較 20 ①実験実習への参加状況の観察 10	A・B・C A・B・C A・B・C	
3 学期	第 5 回定期考査	第5章 鉢花生産 3 鉢花 ④シャコバサボテン 3 鉢花 ⑨シネリア 3 鉢花 ②シクラメン	シャコバサボテンの基礎的な知識を理解する。 シネリアの基礎的な知識を理解する。 シクラメンの基礎的な知識を学び栽培をとおし理解する。	④定期試験 75 ②定期試験での実験実習への理解 20 ①実験実習への参加状況の観察 5	A・B・C A・B・C	
検定資格(時期) ・ 諸費用(予定)						
履修にあたって		3年次の選択科目です。年間を通してシクラメンのプロジェクト学習を行います。各グループでテーマに取り組み役割分担しながら調査研究し、各自で発表し、全員で評価します。最終的に果樹園芸科研究集録に寄稿しデータを毎年蓄積します。この教科の最大の目標は、皆さんが社会に出てから一番求められる、考え計画し、行動、まとめながら、なぜ? どうして? を解決し、発表する能力を醸成することにあります。				

平成30年度 年間シラバス (生徒配布用)

教科・科目		英語理解	単位	2	履修区分	選択
対象学年・類型・コース		3年 農業科				
使用教科書		WIDE ANGLE Premium1				
副教材		なし				
目標とする生徒の将来像		ア. 英文を読み、書かれている内容を理解し、その内容を簡潔にまとめることができる。 イ. 英語での対話や説明文などを聞いて、その概要をつかむことができる。 ウ. 出題された問題に的確に答えることができる。				
評価の観点		定期考査80%・観点別評価20%・提出物・授業に対する積極性・小テスト・標準考査				
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力		評価法	自己評価
1 学期	第1 回 定期 試験	LESSON 1	<ul style="list-style-type: none"> ある少年の物語についての的確に読み取ることが出来る。 時制を理解している。 		テスト 提出物 意欲	A B C
		LESSON 2	<ul style="list-style-type: none"> 放置自転車についての文章を読みとることができる。 進行形を使うことが出来る。 			A B C
		LESSON 3	<ul style="list-style-type: none"> 広告と会話文を的確に読み取ることが出来る。 5文型を理解している。 			A B C
	第2 回 定期 試験	LESSON 4	<ul style="list-style-type: none"> 少女の出来事についての的確に読み取ることが出来る。 5文型を理解している。 		テスト 提出物 意欲	A B C
		LESSON 5	<ul style="list-style-type: none"> 図書館についての文章とグラフを読みとり理解することができる。 疑問詞を使う疑問文を理解している。 			A B C
		LESSON 6	<ul style="list-style-type: none"> パンダの歴史についての文章を的確に読み取ることが出来る。 現在完了形を使うことが出来る。 			A B C
2 学期	第3 回 定期 試験	LESSON 7	<ul style="list-style-type: none"> 温度に関する科学についての的確に読み取ることが出来る。 助動詞の意味を把握し使うことが出来る。 		テスト 提出物 意欲	A B C
		LESSON 8	<ul style="list-style-type: none"> 流氷について読み理解することができる。 受動態を理解している。 			A B C
		LESSON 9	<ul style="list-style-type: none"> サマータイムについての文章を的確に読み取ることが出来る。 比較表現を使うことが出来る。 			A B C
	第4 回 定期 試験	LESSON 10	<ul style="list-style-type: none"> 英語の上達法についての的確に読み取ることが出来る。 不定詞を使うことが出来る。 		テスト 提出物 意欲	A B C
		LESSON 11	<ul style="list-style-type: none"> ある男性の出来事についての文章を理解することができる。 動名詞の用法を把握し使うことが出来る。 			A B C
		LESSON 12	<ul style="list-style-type: none"> アメリカでの出来事についての文章を的確に読み取ることが出来る。 現在分詞と過去分詞を使い分けることが出来る。 			A B C
検定	英語検定 (希望者: 6月・10月・1月)					
履修にあたって	英語を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育み、社会生活に活用できるようにする。 ・配付されたプリントをファイルにしっかり管理する。 ・辞書等授業で使うものは必ず持ってくる。 ・指示された課題や宿題をしっかりと提出日までに行う。 ・小テストには計画的に学習し、取り組む。					

教科・科目	果樹園芸科・ワイン製造	単位数	2	必修修 ・ 必修	選択
学年・系列・コース	3学年果樹園芸科				
使用教科書	副教材 ワインの科学				
目標とする生徒の将来像	本校の位置する山梨県峡東地域は、我が国有数のブドウ産地を背景として日本ワイン製造発祥地としてワイン製造が重要な地場産業となっている。ワインの製造に必要な知識と技術を習得し、さらに食品製造及び農業の各分野で応用する能力と態度を育てる。				
評価の観点	<p>関心・意欲・態度：ワインの製造についてブドウ栽培方法・ブドウ品種・ワイン製造技術の修得に関心や意欲を持って其の日に学習したか。</p> <p>思考判断表現：ブドウの栽培・ワイン製造技術(補糖量の算出・容器容量表からの容量の算出、亜硫酸添加量)について考えてできるか。</p> <p>技能：ブドウ栽培技術(仕立て、剪定・接ぎ木)やワイン製造技術(比重の測定・アルコール分の測定、醸造機器の使い方)ができたか。</p> <p>知識理解：原料ブドウ品種・仕立て方法・ワインの種類や醸造行程、用語・酒税法などについての知識を理解できたか。</p>				

学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力	主たる評価の観点・方法	自己評価
1 学期	第 1 回定期考査	ブドウの来歴とブドウの品種 ブドウの栽培 (仕立て・芽かき・誘引・新梢スケッチ)	欧州系品種、米国系品種、交配種、野生ブドウとその特性がわかる ブドウの栽培歴を学び適期に応じた管理作業をすることができる	授業への取り組み ノートのまとめ レポート作成 出席 服装 実習への取り組み	
	第 2 回定期考査	ワインの歴史 製造基礎技術 (赤・白・ロゼワインの製造法) (補糖量の算出)	ブドウやワインの伝搬について学び、世界へとように広まっていったかわかる。 醸造用ブドウの品種を理解し、赤・白ワインの製造工程の違いを知る 発酵の原理と糖分の変化がわかり補糖量を計算にて求めることができる。	ノートのまとめ レポート作成 出席 服装	
2 学期	第 3 回定期考査	製造基礎技術 (亜硫酸の作用と添加方法) 醸造用ブドウの栽培 (摘房・摘粒・かさかけ・管理作業) 製造基礎技術 (果汁の分析法) ブドウ収穫(甲州・メルロー) 製造基礎技術 (ワインの仕込)	亜硫酸の添加の意味が理解でき添加量が計算できる(ppmの意味がわかる) ブドウの生育に応じた管理作業を行い不良果を見分けることができる。 果汁の糖分酸度の測定ができる。 適切な収穫物の扱いができる	実験への取り組み 衛生管理(洗浄・片つけ) ノートのまとめ レポート作成 出席 服装	
	第 4 回定期考査	製造基礎技術 (発酵管理の方法) (発酵温度とワインの品質) (MLFについて) (ワインの分析) (醸造用ブドウの栽培) 剪定作業	ワインに応じた発酵温度管理の理由を理解する 赤ワインにおけるポリフェノール類の溶出役割について学ぶ MLFについてその原理と役割を理解する。 酒税法に基づいたワインの分析法を学び 正確な実験を行うことができる 長梢・短梢選定の違いを理解し、正しい作業ができる	実験への取り組み 衛生管理(洗浄・片つけ) ノートのまとめ レポート作成 出席 服装	
3 学期	第 5 回定期考査	ワイン分析 (亜硫酸定量) 酒税法 (酒類販売管理者)	ワインに添加する亜硫酸について酒税法に基づいた分析を行うことができる 酒税法により定められている法令について学ぶとともに酒類が健康に及ぼす影響について理解する。	実験への取り組み 衛生管理(洗浄・片つけ) ノートのまとめ レポート作成 出席 服装	

検定資格(時期)	ワイン製造に関連する検定試験等は特になし
諸費用(予定)	
履修にあたって	実習着(食品化学科用)がないため実験実習は主に実験室で行うと共に、果樹園芸科のブドウ栽培技術を生かした管理作業が中心になります。ワインは峡東地域の地場産業であり、是非地域特産品に目を向けて学習に取り組んでもらい、進路選択の一考にしてもらえればと思います

教科・科目	農業・植物バイオテクノロジー		単位数	2	必修	必修	選択
学年・系列・コース	3年・果樹園芸科						
使用教科書	図解植物バイオテクノロジー(実教出版)		副教材				
目標とする生徒の将来像	この科目をとおして植物への興味関心を深め生命や様々な事への探求心を養うことで、畏敬の念を育み地域社会でのコミュニケーションをとおして思いやり、尊敬や感謝の心を表現できる人になってほしい。						
評価の観点	①関心・意欲・態度:教科書、ノート、筆記具の準備がしっかりでき集中して授業に取組める。何事にも関心を持ち意欲的に取組めた。 ②思考・判断・表現:教科書を分かりやすくしっかり読むことができる。ノートへの記載や資料が整理され誰でも見やすい状態である。継続的に植物を観察しその変化や特徴を判断し、ノートにまとめることができた。調査研究内容をレポートにまとめ考察し発表することができた。 ③技能:生物観察における手法や実験器具の正確な扱い、基礎的な組織培養技術が習得できた。 ④知識・理解:植物バイオテクノロジーに関する専門用語を理解できた。						
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力		主たる評価の観点・方法		自己評価
1学期	第1回定期考査	<ul style="list-style-type: none"> 植物バイオテクノロジーの意義と役割 植物バイオテクノロジーの基礎 	<ul style="list-style-type: none"> 植物バイオテクノロジーとは何か理解できる 植物の基本構造が理解できる 植物バイオテクノロジーの専門的基礎用語が理解できる 		○定期考査 8 0% ○取組姿勢 10% ○提出物 10%	A・B・C	
	第2回定期考査	<ul style="list-style-type: none"> 植物組織培養の基礎 植物組織培養の実際 	<ul style="list-style-type: none"> 実験に用いる器具類が正確に扱える 培地組成とその基礎的役割が理解できる 組織培養に用いる培地手順を理解し作成ができる クリーンベンチ内での無菌操作ができる 		○定期考査 7 0% ○取組姿勢 10% ○提出物 10%○実技 10%	A・B・C A・B・C	
2学期	第3回定期考査	<ul style="list-style-type: none"> 植物組織培養の実際 植物ホルモンの利用と働き 	<ul style="list-style-type: none"> 組織片の培養方法を理解し培養できる 茎頂培養の目的を理解し培養できる 植物ホルモンの種類と働きが理解できる 植物や培養目的にあわせた植物ホルモンの利用ができる 		○定期考査 7 0% ○取組姿勢 10% ○提出物 10%○実技 10%	A・B・C A・B・C	
	第4回定期考査	<ul style="list-style-type: none"> 植物組織培養の実際 培養植物の観察と継代 	<ul style="list-style-type: none"> 実験に用いる器具類が正確に扱える 培地組成とその基礎的役割が理解できる 組織培養に用いる培地手順を理解し作成ができる クリーンベンチ内での無菌操作ができる 		○定期考査 7 0% ○取組姿勢 10% ○提出物 10%○実技 10%	A・B・C A・B・C	
3学期	第5回定期考査	<ul style="list-style-type: none"> 細胞融合と遺伝子組換え バイオマスの利用 	<ul style="list-style-type: none"> 細胞融合と遺伝子組換え技術を理解する バイオマスとは何かその利用法を理解する 		○定期考査 8 0% ○取組姿勢 10% ○提出物 10%	A・B・C	
検定資格(時期)	特になし						
諸費用(予定)							
履修にあたって	・評価の観点をしっかり確認し学習に意欲的に臨む ・危険薬品、ガラス器具、ガスバーナー等大怪我につながるものを使用するため実技にあたっては十分安全に授業をすすめるが、実験室内での過ごし方については厳しく指導する。						

教科・科目		農業科・農業経済		単位数	2	必修		必修	選択
学年・系列・コース		3年5組・果樹園芸科							
使用教科書		農業経済(文部科学省)		副教材	自作プリント等				
目標とする生徒の将来像		・農業及び食品産業の経済活動に関する知識と技術を習得させ、流通及び市場の原理を理解させるとともに、流通の改善を図る能力と態度を育てる。 ・食料の合理的な生産、流通、消費のありかたについて深く考える能力と態度を身につけること。また、地球規模で問題となっている農業をめぐる問題について理解し、自分の意見を述べるができること。							
評価の観点		①関心・意欲・態度：日本や世界、山梨の農業と経済について関心を持ち、理解しようとしている。 ②思考・判断・表現：日本の食料自給率の低下を背景に、今後の日本の農業のあり方を考え、表現する事ができる。 ③技能：農業と経済の関係をまとめ、今後の社会に活かす技能を身につけることができる。 ④知識・理解：日本の農業や食品産業、流通システムについて理解している。							
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力	主たる評価の観点・方法		自己評価			
1 学期	第1 回定期 考査	お金について	お金の歴史と、お金の意義を理解する。	① 授業態度 25	A・B・C				
		わが国の農業と世界の食料需給	日本の農業の特徴を理解する。 日本の食料自給率がわかる。 日本と他国の食糧自給率を比較し、日本の問題点に気づくことができる。	② 定期考査 25 ③ 定期考査 25 ④ 定期考査 25	A・B・C A・B・C A・B・C				
	第2 回定期 考査	食料供給と農業および食品産業	食料供給の動向が理解できる。 農業生産、食品産業の役割を説明できる。 農業生産、食品産業の特徴が理解できる。	① 授業態度 25 ② 定期考査 25 ③ 定期考査 25 ④ 定期考査 25	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C				
2 学期	第3 回定期 考査	農産物の需給と価格形成	需要と供給の意味が理解できる。 農産物の需要と供給の特徴が理解できる。 市場の仕組みが理解できる。 価格形成の仕組みが理解できる。	① 授業態度 25 ② 定期考査 25 ③ 定期考査 25 ④ 定期考査 25	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C				
	第4 回定期 考査	農産物の流通と経済	流通の構造やその機能が理解できる。 農産物や加工食品の流通が理解できる。 流通に必要な金融や保険の仕組みが理解できる。	① 授業態度 25 ② 定期考査 25 ③ 定期考査 25 ④ 定期考査 25	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C				
3 学期	第5 回定期 考査	農業生産の組織と食品産業 農業・食料・農村政策と関係法規	農業協同組合の目的を理解し、これからのあり方について理解する。 農業生産組織の種類・目的を理解できる。 食品企業の特徴を理解できる。 農業の情報化について深く考えることができる。	① 授業態度 25 ② 定期考査 25 ③ 定期考査 25 ④ 定期考査 25	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C				
検定資格(時期) ・ 諸費用(予定)		特になし							
履修にあたって		本科目は座学が中心となるが、3学期にはパソコンを利用してグループ学習・発表を行い、学習をより深める。そのため、実習・実験を行いたい者は選択となっている「植物バイオテクノロジー」を選択する事が望ましい。また、学習内容も一部大学の経済レベルの内容があるため、授業中の態度のみならず、予習・復習をしっかり行い、日頃から学習をする習慣が重要となってくる。内容は、経済の一般知識のみならず、農業に特化した流通の構造や組織についても扱うため、将来、食品産業や農業に就きたい者にとっては非常に重要な内容である。山梨の未来を考える上でもポイントとなるヒントやキーワードが頻出するため、意欲を持って受講していただ							

教科・科目	農業・生物活用		単位数	3	必修	・ 必修 (選択)
学年・系列・コース	3年・果樹園芸科					
使用教科書	生物活用(農文協)		副教材			
目標とする生徒の将来像	各自が責任を持って、夏野菜を中心に栽培することにより、栽培技術を確かな学力として身につけ、生涯にわたって生きる力の原点となるようにする。フラワーデザインを学習し、手先を活用することにより、各自が持っている能力を作品を通して発揮する場面とする。					
評価の観点	①園芸や動物の役割や影響に関心を持ち、栽培ほ場においての実際の栽培や、動物の学習に意欲的に取り組み、その活動や学習が生活の質の向上や健康の完全につながるができる態度を身につける。 ②栽培方法を立案し、グループで討議しながら、多方面からの考察を行い、確かな方法で栽培できる能力を身につける。 ③栽培やデザイン活動においては、確実な方法で作品制作や栽培ができ、完成までの過程で、個性を生かした方法で取り組める。 ④園芸や動物についての基本的、体系的な知識や技術を身につけ、他に説明できる理解力を持っている。					
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力	主たる評価の観点・方法	自己評価	
1 学期	第1 回 定期 考査	私たちの暮らしと野菜の活用	野菜の活用方法を理解する。 春まき野菜の種類を理解し栽培計画ができる。 野菜のもつ栄養と機能を理解する。 ほ場準備から種まきまでの1坪農園の管理ができる。	④定期試験 70 ④定期試験での実験実習への理解 15 ①1坪農園の計画書 5 ①②③グループワークと実験実習への参加状況の観察 10	A・B・C A・B・C A・B・C	
	第2 回 定期 考査	野菜の栽培計画と管理	1坪農園管理の管理ができる。落花生の種まきができる。 短期間に育てることができ簡単に収穫できることがわかる。収穫する喜びを味わい農業の楽しさを理解する。 春から夏の野菜栽培を理解する。 収穫物に応じた加工実習ができる。	①実験実習への参加状況の観察 10 ②③グループワーク 5 ④定期試験 70 ④定期試験での実験実習への理解 5	A・B・C A・B・C A・B・C	
2 学期	第3 回 定期 考査	野菜の栽培計画と管理 フラワーデザイン 容器栽培	春から夏の野菜栽培を理解する。 フラワーデザインの基礎を理解する。 容器栽培の特徴とポイントを理解する。	④定期試験 70 ④定期試験での実験実習への理解 10 ③作品の完成度 10 ①実験実習への参加状況の観察 10	A・B・C A・B・C A・B・C	
	第4 回 定期 考査	フラワーデザイン	フラワーデザインの基礎を理解する。	④定期試験 70 ④定期試験での実験実習への理解 10 ③作品の完成度 10 ①実験実習への参加状況の観察 10	A・B・C A・B・C A・B・C	
3 学期	第5 回 定期 考査	野菜の栽培と活用 園芸療法	野菜の貯蔵・加工と活用を理解する。(ハクサイ・落花生・サツマイモの加工) 園芸療法とその特徴を理解する。	①実験実習への参加状況の観察 10 ④定期試験 80 ④定期試験での実験実習への理解 10	A・B・C A・B・C	
検定資格(時期) ・ 諸費用(予定)	持ち帰りの加工品材料費として1500円～2000円を徴収する。					
履修にあたって	3年次の選択科目です。定期試験(年5回)定期試験の実習問題にて実習実習理解判断を行います。					

平成30年度 年間シラバス (生徒配布用)

教科・科目	「グリーンライフ」	単位	2	履修区分	必修修 ・ 必修 ・ 選択
対象学年・類型・コース	3年果樹園芸科				
使用教科書	農文協 「グリーンライフ」				
目標とする生徒の将来像	教材を通して、農業農村が持つ多様な機能や魅力を見だし、それらを活用して人と人が交流し、新たな余暇活動と農に関するビジネス、さらには将来のライフスタイルを創造していく。また、授業の中で実施する交流活動など体験を通してコミュニケーション能力を培い、望ましい社会人としての素養を身につける。				
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 班編制の中での学習活動状況 ・ 交流活動の成果及び発表の態度 (生徒相互評価を加える) ・ 定期試験の評点 ・ 提出物の成果 				
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力	主たる評価の観点・方法	自己評価
1 学期	第1回定期試験	<ul style="list-style-type: none"> ・ 科目オリエンテーション ・ グリーンツーリズムの変遷 ・ 自己のライフスタイルと余暇活動 ・ 都市と農村の交流 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ライフスタイルと余暇の有効活用について理解する ・ ライフスタイルの変遷や都市と農村の人的交流が新たなビジネスの可能性を生むことを理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査の評価 ・ 実習への取組状況 ・ 学習の記録 	
	第2回定期試験	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業・農村の持つ魅力 ・ 地域を研究する ・ 農業・農村の機能と活用 ・ 自然環境の特徴と活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちが暮らす地域の魅力を知り、情報発信について考える ・ 自然の価値と環境保全について理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査の評点 ・ 実習ノートの評価 ・ 交流活動への取組状況 	
2 学期	第3回定期試験	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農村文化の発見と活用 ・ 農耕儀礼と年中行事 ・ 地域特産物の栽培・加工 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本の文化や伝統に触れ、その魅力に気づく ・ 地域に根差した特産品を知り、地産地消・スローフード運動について理解を深める 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査の評価 ・ 制作物の評価 ・ 学習の記録 	
	第4回定期試験	<ul style="list-style-type: none"> ・ グリーンツーリズムのあゆみ ・ 新たな農のビジネス ・ グリーンツーリズムの企画と運営 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 旅行の概念を理解し、現代人が求める癒しや学びの場としての農の持つ魅力や地域資源としての生かし方を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査の評価 ・ 交流活動への取組状況 	
3 学期	第5回定期試験	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民農園の特徴とあゆみ ・ 観光農園と直売所 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 疲弊した都市部の人間に市民農園が与える影響や機能について理解する ・ ビジネスとしての観光農園や農産物直売所について理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査の評価 ・ 交流活動への取組状況 	
	検定資格(時期)	・ 資格については特になし			
	諸費用(予定)	・ 諸費用も特になし			
	履修にあたって	・ 農場での生産物を活用した交流活動(異校種間交流や市民活動など)への参加を予定している。			